

高等学校 令和5年度（1学年用） 教科 数学 科目 数学 I

教科： 数学 科目： 数学 I 単位数： 3 単位

対象学年組： 第 1 学年 1 組～ 5 組

教科担当者： （1組：伊東・大内） （2組：片井木・大内） （3組：長谷部・大内） （4組：片井木・長谷部） （5組：伊東・長谷部）

使用教科書： （ 第一学習社 新編 数学 I ）

教科 数学 の目標：

- 【知識及び技能】 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

科目 数学 I の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	相当 時数
1 学 期	A 数と式 【知識及び技能】 数を実数まで拡張し、簡単な無理数の四則計算をする。 二次の乗法公式及び因数分解の公式を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 集合の考えを用いて論理的に考察し、簡単な命題を証明する。 問題を解決する際に、学習した計算の方法と関連付けて、式を適切に利用する。	・ 整式 ・ 実数	【知識・技能】 小テスト 【思考・判断・表現】 小テスト・ノート	○	○	○	18
	定期考査			○	○		1
	A 数と式 【知識及び技能】 不等式の解の意味や不等式の性質について理解し、一次不等式の解を求める。 集合と命題に関する基本的な概念を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 不等式の性質を基に一次不等式を解く方法を考察する。 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、一次不等式を問題解決に活用する。 【学びに向かう力、人間性等】 身近な事象を題材に、集合的な考察や、不等式など式として扱うこと	・ 一次不等式 ・ 集合と命題	【知識・技能】 小テスト 【思考・判断・表現】 小テスト・ノート 【主体的に学習に取り組む態度】 授業態度・提出物	○	○	○	4
	定期考査			○	○		1
	B 2次関数 【知識及び技能】 二次関数の値の変化やグラフの特徴について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 二次関数の式とグラフとの関係について、コンピュータなどの情報機器を用いてグラフをかくなどして多面的に考察する。	・ 関数とグラフ	【知識・技能】 小テスト 【思考・判断・表現】 小テスト・ノート	○	○	○	15
	定期考査			○	○		1
	B 2次関数 【知識及び技能】 二次関数の最大値や最小値を求める。 二次方程式の解と二次関数のグラフとの関係について理解する。 二次不等式の解と二次関数のグラフとの関係について理解する。	・ 2次関数の最大・最小 ・ 2次関数と方程式・不等式	【知識・技能】 小テスト 【思考・判断・表現】 小テスト・ノート 【主体的に学習に取り組む態度】 授業態度・提出物				

高等学校 令和5年度（1学年用） 教科 数学 科目 数学A

教科： 数学 科目： 数学A 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 1 学年 1 組～ 5 組

教科担当者： （ 1 組：大内 ） （ 2 組：長谷部 ） （ 3 組：片井木 ） （ 4 組：大内 ） （ 5 組：片井木 ） （ 組： ）

使用教科書： （ 第一学習社 新編 数学A ）

教科 数学 の目標：

【知識及び技能】 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

科目 数学A の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	図形の性質を見だし、論理的に考察する力、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、事象に数学の構造を見だし、論理的に考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	評価			配当 時数
				知	思	態	
1 学 期	A 集合 【知識及び技能】 集合に関する基本的な概念を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 部分集合、共通部分、和集合、補集合をベン図を利用し表現することができる。	・集合の表し方 ・部分集合 ・共通部分と和集合 ・補集合	【知識・技能】 小テスト 【思考・判断・表現】 小テスト ノート	○	○		5
	B 場合の数 【知識及び技能】 集合の要素の個数に関する基本的な関係や和の法則、積の法則などの数え上げの原則について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 和の法則と積の法則の有意性に気づき、それらの違いを明確に説明することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 身近な事象において、和の法則や積の法則を活用できる場面を見いだそうとしている。	・集合の要素の個数 ・補集合の要素の個数 ・樹形図 ・和の法則 ・積の法則	【知識・技能】 小テスト 【思考・判断・表現】 小テスト ノート 【主体的に学習に取り組む態度】 授業態度	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
	C 順列・組合せ 【知識及び技能】 具体的な事象を基に順列及び組合せの意味を理解し、順列の総数や組合せの総数を求めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 事象の構造などに着目し、場合の数を求める方法を多面的に考察することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 身近な事象から具体的に順列や組合せを見いだそうとしている。	・順列 ・円順列 ・重複順列 ・組合せの総数 ・同じものを含む順列	【知識・技能】 小テスト 【思考・判断・表現】 小テスト ノート 【主体的に学習に取り組む態度】 授業態度	○	○	○	10
定期考査			○	○		1	
2 学 期	D 確率とその基本性質 【知識及び理解】 確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを用いて事象の確率や期待値を求めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 確率の性質や法則に着目し、確率を求める方法を多面的に考察することができる。	・試行と事象 ・事象の確率 ・積事象 ・和事象 ・排反事象 ・確率の基本性質 ・余事象の確率	【知識・技能】 小テスト 【思考・判断・表現】 小テスト ノート	○	○		14
	定期考査			○	○		1
	F いろいろな確率 【知識及び理解】 独立な試行の意味を理解し、独立な試行の確率を求めることができる。 条件付き確率の意味を理解し、簡単な場合について条件付き確率を求めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 独立な試行、反復試行など判断し確率を求めることができる。	・独立な試行 ・反復試行 ・条件付き確率 ・条	【知識・技能】 小テスト 【思考・判断・表現】 小テスト ノート	○	○		14
定期考査			○	○		1	

3 学 期	G 三角形の性質 【知識及び理解】 三角形に関する基本的な性質を理解 することができる。【思考 力、判断力、表現力】 図形の 構成要素間の関係や既に学習した図 形の性質に着目し、図形の新たな性 質を見いだし、その性質について論 理的に考察したり説明したりするこ とができる。	・内分と外分 平行線の性質 三角形の重心 形の外心 の内心 定理 の定理 ・三 角形 ・三角 形 ・チェバの 定理 ・メネラウスの	【知識・技能】 小テスト 【思考・判断・表現】 小テスト ノート	○	○	10
	H 円の性質 【知識及び理解】 円に関する基本的な性質に関して理 解することができる。【思考 力、判断力、表現力】 図形の 性質について統一的・発展的に考察 することができる。	・円周角の定理とその逆 円に内接する四角形 と直線 と弦のつくる角 の定理 の位置関係 共通接線 ・円 ・接線 ・方べき の定理 ・2つの円 の	【知識・技能】 小テスト 【思考・判断・表現】 小テスト ノート	○	○	10
	定期考査			○	○	1
						合計
						78

高等学校 令和5年度(12学年用) 教科 数学 科目 実用数学

教科: 数学

科目: 実用数学

単位数: 2 単位

対象学年組: 第 2 学年 選択必修

教科担当者: 長谷部達郎

使用教科書: なし

教科 数学

の目標:

【知識及び技能】 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。

【思考力、判断力、表現力等】 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。

【学びに向かう力、人間性等】 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善したりしようとする態度を身に付けている。

科目 実用数学

の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
数と式、関数、図形、確率・統計についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A数と式 【知識及び技能】 数と式の計算の基本的な計算ができる。 【思考力、判断力、表現力等】 数と式の性質に着目して、関連付けたり、問題を解決したりできる。 【学びに向かう力、人間性等】 目標を設定し、自ら学び、学習の過程を振り返ることができる。	・数と式の計算 ・方程式 ・数と式の問題解決 ・方程式の問題解決 ・中学校1学年の内容の振り返り	【知識・技能】 数と式の計算の基本的な計算ができる。 【思考・判断・表現】 数と式の性質に着目して、関連付けたり、問題を解決したりできる。 【主体的に学習に取り組む態度】 目標を設定し、自ら学び、学習の過程を振り返ることができる。	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
	B関数 【知識及び技能】 関数について理解する。 関数の値を求めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 関数の性質に着目して、関連付けたり、問題を解決したりできる。 【学びに向かう力、人間性等】 目標を設定し、自ら学び、学習の過程を振り返ることができる。	・関数 ・関数の問題解決 ・中学校1学年の内容の振り返り	【知識・技能】 関数について理解している。 関数の値を求めることができる。 【思考・判断・表現】 関数の性質に着目して、関連付けたり、問題を解決したりできる。 【主体的に学習に取り組む態度】 目標を設定し、自ら学び、学習の過程を振り返ることができる。	○	○	○	12
定期考査			○	○		1	
2 学 期	C図形 【知識及び技能】 図形の基本的な性質を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 図形の性質に着目して、関連付けたり、問題を解決したりできる。 【学びに向かう力、人間性等】 目標を設定し、自ら学び、学習の過程を振り返ることができる。	・図形 ・図形の問題解決 ・中学校2学年の内容の振り返り	【知識・技能】 図形の基本的な性質を理解している。 【思考・判断・表現】 図形の性質に着目して、関連付けたり、問題を解決したりできる。 【主体的に学習に取り組む態度】 目標を設定し、自ら学び、学習の過程を振り返ることができる。	○	○	○	14
	定期考査						1
	D確率、統計 【知識及び技能】 確率・統計の基本的な用語を理解する。 確率や統計量を求めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 確率や統計を用いて問題を解決することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 目標を設定し、自ら学び、学習の過程を振り返ることができる。	・確率、統計 ・確率、統計の問題解決 ・中学校2学年の内容の振り返り	【知識・技能】 確率・統計の基本的な用語を理解している。 確率や統計量を求めることができる。 【思考・判断・表現】 確率や統計を用いて問題を解決することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 目標を設定し、自ら学び、学習の過程を振り返ることができる。	○	○	○	14
定期考査			○	○		1	
3 学 期	E数学的思考力 【知識及び技能】 問題解決に必要な知識を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 数学的な思考力を身につける。 【学びに向かう力、人間性等】 目標を設定し、自ら学び、学習の過程を振り返ることができる。	・思考力を必要とする問題解決 ・中学校3学年の内容の振り返り	【知識・技能】 問題解決に必要な知識を理解している。 【思考・判断・表現】 数学的な思考力を身につけている。 【主体的に学習に取り組む態度】 目標を設定し、自ら学び、学習の過程を振り返ることができる。	○	○	○	21
	定期考査			○	○		1
							合計
							78

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 数学 科目 数学B

教科： 数学 科目： 数学B 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 選択クラス

教科担当者： 大柴

使用教科書：（ 第一学習社 新編 数学B ）

教科 数学 の目標：

- 【知識及び技能】 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。
- 【思考力、判断力、表現力等】 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。
数列、統計的な推測及び数学と社会生活の分野において、数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、事象に数学の構造を見い出そうとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善したりしようとする態度を身に付けている。
- 【学びに向かう力、人間性等】

科目 数学B の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知 思 態			配当 時数
1 学 期	A 数列 【知識及び技能】 ・ 数列に関する基本的な用語の意味を理解している。 ・ 等差数列について理解している。 ・ 等差数列の一般項や和を求めることができる。 ・ 等比数列について理解している。 ・ 等比数列の一般項や和を求めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・ 等差数列の一般項や和を求める過程を考察することができる。 ・ 等比数列の一般項や和を求める過程を考察することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・ ある規則にしたがって並んでいる身の回りの数の列に関心をもち、これらの数の列について進んで調べようとする。 ・ 等差数列の一般項や和について関心をもち、進んでこれらを求めてみようとする。 ・ 等比数列の一般項や和について関心をもち、進んでこれらを求めてみようとする。	・ 数列と一般項 ・ 等差数列 ・ 等差数列の和 ・ 等比数列	【知識・技能】 小テスト 【思考・判断・表現】 小テスト・ノート 【主体的に学習に取り組む態度】 授業態度・提出物	○	○	○	15
	定期考査			○	○		1
	A 数列 【知識及び技能】 ・ 等比数列の一般項や和を求めることができる。 ・ 和の記号Σの意味とその性質について理解している。 ・ 数列の和を、和の記号Σを用いて処理することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・ 自然数の2乗の和の公式を導く過程を考察することができる。 ・ 和の記号Σの性質を導く過程を考察することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・ 自然数の2乗の和について関心をもち、工夫して求めてみようとする。	・ 等比数列の和 ・ 自然数の2乗の和 ・ 和の記号Σとその性質	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】	○	○	○	15
定期考査			○	○		1	
A 数列 【知識及び技能】 ・ 階差数列の意味について理解している。 ・ 階差数列を用いて一般項を求めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】	・ 階差数列	【知識・技能】 小テスト 【思考・判断・表現】 小テスト・ノート 【主体的に学習に取り組む態度】 授業態度・提出物	○	○	○	11	

2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 階差数列を用いて一般項を求める過程を考察することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・ 階差数列に関心をもち、これを用いてもとの数列の一般項を求めてみようとする。 			○	○	○	11
	定期考査			○	○		1
	A 数列 【知識及び技能】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 数列の帰納的定義や漸化式について理解している。 ・ 漸化式で表された数列の一般項を求めることができる。 ・ 数学的帰納法による証明法を理解している。 ・ 数学的帰納法によって等式や整数の性質を証明することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 漸化式で表された数列の一般項を求める過程を考察することができる。 ・ 数学的帰納法による証明のしくみやよさを考察することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 漸化式で表された数列に関心をもち、進んで一般項を求めてみようとする。 ・ 数学的帰納法に関心をもち、証明のしくみやよさを知らうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漸化式 ・ 数学的帰納法 	【知識・技能】 小テスト 【思考・判断・表現】 小テスト・ノート 【主体的に学習に取り組む態度】 授業態度・提出物	○	○	○	16
定期考査			○	○		1	
3 学 期	B 統計的な推測 【知識及び技能】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 確率変数の意味を理解したうえで、確率分布を求めることができる。 ・ 確率変数の平均、分散、標準偏差の意味について理解している。 ・ 確率変数の平均、分散、標準偏差を求めることができる。 ・ 二項分布及びその平均と標準偏差について理解している。 ・ 二項分布の平均と標準偏差を求めることができる。 ・ 確率変数が連続的な値をとるとき確率分布について理解している。 ・ 確率密度関数が与えられているとき、確率変数がある範囲の値をとる確率を求めることができる。 ・ 正規分布及び標準正規分布の意味を理解している。 ・ 標準正規分布にしたがう確率変数がある範囲の値をとる確率を求めることができる。 ・ 正規分布にしたがう確率変数について、標準化して確率を求めることができる。 ・ 二項分布の正規分布による近似について理解している。 ・ 二項分布における確率を正規分布で近似して求めることができる。 ・ 標本調査に関する基本的な用語の意味を理解している。 ・ 母集団から無作為標本を抽出することができる。 ・ 母集団分布について、母平均、母標準偏差を求めることができる。 ・ 標本平均の確率分布について理解している。 ・ 標本平均の確率分布を求めることができる。 ・ 標本平均の平均及び標準偏差と母平均及び母標準偏差との関係について理解し、標本平均の平均や標準偏差を求めることができる。 ・ 標本平均の分布を正規分布に近似することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 確率分布を、確率変数とそれらの値をとる確率との対応関係であるとしてとらえることができる。 ・ 確率変数の平均、分散、標準偏差を導く過程について考察することができる。 ・ 確率変数$aX+b$の平均、分散、標準偏差と確率変数の平均、分散、標準偏差との関係について考察することができる。 ・ 二項分布を導く過程や二項分布の平均と標準偏差を導く過程を考察することができる。 ・ 確率密度関数について考察することができる。 ・ 二項分布を正規分布で近似する過程を考察することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 確率分布の考えについて関心をもち、これらについて、進んで調べようとする。 ・ 確率変数$aX+b$の平均、分散、標準偏差について関心をもち、確率変数の平均、分散、標準偏差との関係について調べようとする。 ・ 二項分布について関心をもち、進んで調べようとする。 ・ 二項分布の平均と標準偏差について関心をもち、これらについて進んで調べようとする。 ・ 連続的な値をとる確率変数とその確率分布に関心をもち、進んで調べようとする。 ・ 正規分布に関心をもち、進んで調べようとする。 ・ 二項分布の正規分布による近似に関心をもち、進んで調べようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 確率変数とその分布 ・ 確率変数の平均 ・ 二項分布 ・ 連続型確率変数 ・ 正規分布 ・ 二項分布の正規分布による近似 	【知識・技能】 小テスト 【思考・判断・表現】 小テスト・ノート 【主体的に学習に取り組む態度】 授業態度・提出物	○	○	○	16
	定期考査			○	○		1

合計
78

高等学校 令和5年度（1学年用） 教科 数学 科目 数学Ⅱ

教科：数学 科目：数学Ⅱ 単位数：4 単位
 対象学年組：第2学年 1組～5組
 教科担当者：（1組：大柴）（2組：伊東）（3組：大柴）（4組：大内）（5組：大柴）
 使用教科書：（第一学習社 新編 数学Ⅱ）
 教科 数学 の目標：

- 【知識及び技能】 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。
- 【思考力、判断力、表現力等】 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。
- 【学びに向かう力、人間性等】 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度を身に付けている。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数	
A 式と証明 【知識及び技能】 ・3次の乗法公式および因数分解の公式の導き方や適用の仕方について理解している。 ・展開式のある項の係数を、二項定理を用いて求めることができる。 ・整式どうしの割り算を行い、商と余りを求めることができる。 ・分数式の約分、通分や四則計算を行うことができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・問題解決の際に、学習した計算の方法と関連付けて、式を適切に利用できる。 ・組合せの考えをもとに、二項定理を導く過程を考察することができる。 ・整数の割り算と整式の除法との共通点に注目し、除法の原理について考察することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・パスカルの三角形に関心をもち、性質などを調べてみようとする。 ・二項定理に関心をもち、具体的な場面に活用してみようとする。	・整式の乗法、因数分解 ・整式の除法 ・分数式とその計算	【知識・技能】 小テスト 【思考・判断・表現】 小テスト・ノート		○	○	○	25
B 複素数と方程式 【知識及び技能】 ・複素数の定義を理解している。 ・虚数単位 <i>i</i> を用いて負の数の平方根を表すことや、複素数の四則計算を行うことができる。 ・2次方程式を、解の公式を用いて複素数の範囲で解くことができる。 ・2次方程式の解の判別をすることができる。 ・解についての条件が与えられた2次方程式の係数の値やとり得る値の範囲を、判別式を利用して定めることができる。 ・解と係数の関係を、問題解決の場面で活用することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・複素数が実数を拡張したものであることを理解し、実数について成り立つ性質を包含していることを、説明することができる。 ・2次方程式の解と係数の関係を導く過程を、考察したり説明したりすることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・数の体系や複素数の計算の規則に関心をもち、調べてみようとする。 ・2次方程式が複素数の範囲で必ず解けることに関心をもち、方程式の解について調べてみようとする。	・複素数とその演算 ・解の公式 ・剰余の定理、因数定理 ・高次方程式	【知識・技能】 小テスト 【思考・判断・表現】 小テスト・ノート 【主体的に学習に取り組む態度】 授業態度・提出物		○	○	○	26
1学期 定期考査			○	○		1	
C 図形と方程式 【知識及び技能】 ・与えられた条件を満たす直線の方程式を求めることができる。 ・直線の方程式の一般形から、傾きや切片を求めることができる。 ・直線の平行条件や垂直条件を理解している。 ・点と直線の距離を求めることができる。 ・与えられた条件を満たす円の方程式を求めることができる。 ・直線上の点の座標 ・平面上の点の座標 ・直線の方程式 ・2直線の平行と垂直 ・円の方程式 ・円と直線		【知識・技能】 小テスト 【思考・判断・表現】 小テスト・ノート 【主体的に学習に取り組む態度】 授業態度・提出物					

<p>ことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・円の方程式から、中心と半径を求めることができる。 ・円と直線の共有点の座標を求めることができる。 ・円と直線の位置関係を調べたり、与えられた位置関係を満たすような円を求めたりすることができる。 ・円上の点における接線や円外の点から引いた接線の方程式を求めることができる。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2点間の距離や内分点・外分点の座標を求める公式をもとにして、ある点が満たす条件を式形で表すことができる。 ・三角形の重心の座標を求める公式を、重心が満たす図形的な性質から導くことができる。 ・座標平面上の図形を、方程式を満たす点の集まりとみなすことができる。 ・2直線の垂直条件を導く過程について、説明することができる。 ・与えられた条件を満たす円の方程式の求め方を考察することができる。 ・円と直線の位置関係を、連立方程式の素数解の個数、および円の中心から直線までの距離と半径との大小関係から、説明することができる。 ・円の接線の方程式を、接線の図形的な性質から導くことができる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な問題解決の場面で、2点間の距離や内分点・外分点の公式を積極的に活用しようとする。 ・直線の方程式が定まる条件に関心をもち、調べてみようとする。 ・円が方程式によって表されることに関心をもち、いろいろな円を方程式で表してみようとする。 ・円と直線の位置関係が連立方程式の解に帰着することに関心をもち、それをもとに位置関係を調べてみようとする。 			○	○	○	24
定期考査			○	○		1
<p>・三角関数</p> <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・角を、単位円の回転した量と考える見方について理解している。 ・角の単位を指示したり、単位の数す一般角を求めたりすることができる。 ・弧度法による角の表示方法について理解し、弧度法による角との相互の変換を行うことができる。 ・単位円の長さや面積を求めることができる。 ・一般角の三角関数の定義について理解し、代表的な三角関数の値を求めることができる。 ・三角関数の性質や相互関係を理解し、それらを利用して 	<ul style="list-style-type: none"> ・一般角 ・弧度法 ・三角関数 ・三角関数を含む方程式・不等式 ・三角関数の加法定理 ・2倍角の公式、半角の公式 ・三角関数の合成 	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小テスト <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小テスト・ノート <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業態度・提出物 				

<p>1. 三角関数の値や式の値を求めることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異なる三角関数のグラフをかきことができる。 ・三角関数を含む簡単な方程式や不等式を解くことができる。 ・三角関数の加法定理を利用して、三角関数の値を求めることができる。 ・三角関数の加法定理を利用して、三角関数の値を求めることができる。 ・2倍角の公式や半角の公式を利用して、三角関数の値を求める。 ・三角関数の合成を利用して、三角関数の値を求める。 ・サインとコサインを含む式、三角関数の合成を利用して、サインだけの式に直すことができる。 ・三角関数の合成を利用して、サインとコサインを含む式を最大値や最小値を求めることができる。 【思考力・判断力・表現力等】 ・単位円・三角関数、単位円を導入して考えるよさを説明することができる。 ・三角関数の性質や関係性を導く過程を考察することができる。 ・三角関数の性質を利用して、三角関数の値を手早く求めることができる。 ・三角関数の性質から、関数や対称性などのグラフの特徴を考察したり説明したりすることができる。 ・三角関数のグラフや写像から関数の最大・最小したグラフについて、もとのグラフとの関係を、考察したり説明したりすることができる。 ・三角関数の加法定理を導く過程を考察することができる。 ・三角関数の加法定理から、2倍角の公式や半角の公式、三角関数の合成の公式を導く過程を考察することができる。 ・三角関数の加法定理から、三角関数の加法定理や半角の公式を導く過程を考察することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・三角関数の相互関係や性質に関心をもち、いろいろな三角関数の値を求めようとする。 ・三角関数のグラフに関心をもち、調べてみようとする。 ・三角関数の加法定理について関心をもち、調べてみようとする。 ・いろいろな問題解決の過程で、三角関数の性質の公式や半角の公式、三角関数の合成を積極的に応用しようとする。 			○	○	○	24
<p>2 学期</p> <p>定期考査</p> <p>【知識・技能】</p> <p>・整数の指数</p> <p>・累乗根</p> <p>・指数の拡張</p> <p>・指数関数とそのグラフ</p> <p>・対数の性質</p> <p>・対数関数とその性質</p> <p>【知識・技能】</p> <p>・小テスト</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>・小テスト・ノート</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>・授業態度・提出物</p>						1
<p>定期考査</p>			○	○		1
<p>3 学期</p> <p>【知識・技能】</p> <p>・平均変化率</p> <p>・微分係数とその意味</p> <p>・導関数</p> <p>・関数の微分</p> <p>・接線の方程式</p> <p>・関数の増加・減少</p> <p>・関数の極大・極小</p> <p>・不定積分</p> <p>・定積分</p> <p>・面積</p> <p>【知識・技能】</p> <p>・小テスト</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>・小テスト・ノート</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>・授業態度・提出物</p>						28
<p>定期考査</p>			○	○		1
合計						156

高等学校 令和5年度（12学年用） 教科 数学 科目 進学数学（基礎）

教科： 数学 科目： 進学数学（基礎） 単位数： 2 単位
 対象学年組： 第 2 学年 選択必修
 教科担当者： 伊東 辰巳
 使用教科書： なし

教科 数学 の目標：

【知識及び技能】 数学の原理原則を理解し、事象を数学的に表現・処理できる。

【思考力、判断力、表現力等】 事象を数学的に考察し、課題解決に数学を利用できる。

【学びに向かう力、人間性等】 数学の良さを認識し、課題解決に向けて自ら試行錯誤しようとする。

科目 進学数学（基礎） の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析の分野において、数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善したりしようとする態度を身に付けている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知 思 態			配当 時数
1 学期	1章 数と式 【知識及び技能】 式の展開や因数分解ができる。 【思考力、判断力、表現力等】 式の特徴を捉え、式の変形を見通しよく行うことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 問題解決に向けて、自ら取り組もうとしている。 定期考査	・式の展開と因数分解 ・無理数の計算 ・対称式の計算 ・二重根号の外し方	【知識・技能】 式の計算を適切に行うことができる。 【思考・判断・表現】 式の特徴を捉えて、最適な処理を行うことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 問題解決に向けて、自ら取り組もうとしている。	○	○	○	12
	2章 2次関数 【知識及び技能】 2次関数にグラフがかけられる。 【思考力、判断力、表現力等】 事象の最大・最小を2次関数を用いて考察できる。2次不等式に応用できる。 【学びに向かう力、人間性等】 問題解決に向けて、自ら取り組もうとしている。 定期考査	・2次関数のグラフ ・2次関数の決定 ・2次関数の最大最小 ・1次不等式と2次不等式 ・絶対値を含む方程式・不等式	【知識・技能】 2次関数の特徴を捉え、グラフがかけるとともに2次不等式の解法に利用できる。 【思考・判断・表現】 2次関数を用いて、事象の最大最小を考察したり、解の配置についてグラフを利用した考察ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 問題解決に向けて、自ら取り組もうとしている。	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
2 学期	3章 図形と計量 【知識及び技能】 三角比を理解するとともに、その値や値を利用した計算ができる。 【思考力、判断力、表現力等】 式の特徴を捉え、式の変形を見通しよく行うことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 問題解決に向けて、自ら取り組もうとしている。 定期考査	・三角比の定義と拡張 ・三角比の相互関係 ・三角方程式・不等式 ・正弦定理と余弦定理 ・三角形や4角形の面積 ・空間図形への利用	【知識・技能】 三角比を用いて辺の長さや角の大きさを求めたり、三角比を含む方程式や不等式を解くことができる。 【思考・判断・表現】 実際の測定の場面において、空間図形の中に適当な三角形を見出し、三角比や正弦定理などを利用することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 問題解決に向けて、自ら取り組もうとしている。	○	○	○	14
	4章 集合と論証 【知識及び技能】 集合の包含関係を決定できる。また、包含関係をもとに命題について考察できる。 【思考力、判断力、表現力等】 物事を集合として捉え、包含関係を考察できる。また、命題について審議を考察することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 問題解決に向けて、自ら取り組もうとしている。 定期考査	・集合の包含関係 ・集合の要素の個数 ・命題	【知識・技能】 逆、裏、対偶や、それらと命題との関係を理解している。また、対偶を用いた証明や背理法による証明ができる。 【思考・判断・表現】 2つの条件の間の関係を、命題の真偽と関連付けて説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 問題解決に向けて、自ら取り組もうとしている。	○	○	○	7
	5章 データの分析 【知識及び技能】 与えられたデータをもとに箱ひげ図を作ることができる。また、分散や標準偏差・相関係数を求めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 データをもとに複数の変数の組の関係性を考察できる。 【学びに向かう力、人間性等】 問題解決に向けて、自ら取り組もうとしている。 定期考査	・代表値と箱ひげ図 ・分散と標準偏差 ・相関係数	【知識・技能】 データをもとに箱ひげ図がかけられる。また分散や標準偏差が求められる。 【思考・判断・表現】 複数の変数についてのデータを使って、特徴を分析できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 問題解決に向けて、自ら取り組もうとしている。	○	○	○	7
	定期考査			○	○		1
3 学期	入試演習 【知識及び技能】 入試特有の複合問題を解くことができる。 【思考力、判断力、表現力等】 与えられた問題について、解法を考察できる。 【学びに向かう力、人間性等】 問題解決に向けて、自ら取り組もうとしている。 定期考査	・入試問題	【知識及び技能】 入試特有の複合問題を解くことができる。 【思考力、判断力、表現力等】 与えられた問題について、解法を考察できる。 【学びに向かう力、人間性等】 問題解決に向けて、自ら取り組もうとしている。	○	○	○	21
	定期考査			○	○		1 合計 78

年間授業計画表（令和5年度）

担当教員

大柴 優星

教科・科目	数学科 数Ⅰ一般	単位数	2	学年・ 学級	3年選択者
教科書	完全攻略 新版 高校生のSPI問題集				
補助教材	完全攻略 高校生の基礎数学トレーニング				
学習目標	①就職試験等で求められる、非言語分野における論理的思考力の向上 ②社会人として必要とされる基礎的な計算処理を可能にする ③苦手とすることに対し、粘り強く取り組む姿勢を育む				

学習期間	学習内容	学習のねらい【到達度目標】	時数 (目安)
1学期 中間考査	<ul style="list-style-type: none"> ●四則計算 ●小数・分数の計算 ●方程式 ●割合 ●比 	○原理・仕組みについて説明することができる ○必要な計算をすることができる ○計算式の意味を理解している	12
1学期 期末考査	<ul style="list-style-type: none"> ●損益 ●料金 ●速さ・時間・距離 ●旅人算 	○原理・仕組みについて説明することができる ○必要な計算をすることができる ○計算式の意味を理解している	14
2学期 中間考査	<ul style="list-style-type: none"> ●流水算 ●植木算 ●鶴亀算 ●濃度算 ●年齢算 ●仕事算・水槽算 	○原理・仕組みについて説明することができる ○必要な計算をすることができる ○計算式の意味を理解している	14
2学期 期末考査	<ul style="list-style-type: none"> ●順列・組み合わせ ●確率 ●平均の計算 ●表の読み取り ●図形 ●集合 ●推論 	○原理・仕組みについて説明することができる ○必要な計算をすることができる ○計算式の意味を理解している ○図形の形や模様を頭の中で想像し、操作することができる	16
3学期 期末考査	<ul style="list-style-type: none"> ●総合演習 ●振り返り 	○学習事項を振り返り、一年間のまとめをすることができる。	22

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力
評価の観点	○根拠をもとに基礎的な計算を行うことができる。 ○基礎的な計算を身に着け、確実に答えを導き出すことができる。	○公式や定理に頼るのではなく、なぜそうなるのかという原理について着目し、活用することができる。	○自ら論理的思考を活用し、課題解決を積極的に行おうとしている。
評価方法	定期テスト（100点×4回） ワーク提出・授業プリント（加点・減点） 授業態度・出席状況（加点・減点）		

学習のポイント	【補習・補講計画、参考図書など】 成績不良者に対する補習を行う。 テスト前に質問教室を行う。 単に計算ができる、答えを導き出せることを目的とせず、なぜそうなるのか説明できる力を身に着けさせ、考査で確認する。
---------	--

年間授業計画表（令和5年度）

担当教員

伊東 辰巳

教科・科目	数学（進学）	単位数	2	学年・学級	3学年（必修選択）
教科書	数学 I Standard（東京書籍）				
補助教材	2024 入試 短期集中ゼミ 看護・医療系のための数学 I ・ A				
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ●一般受験に対応した数学力を身に付ける。 ●看護・医療系の学校に焦点を合わせて問題を捉える力を身に付ける。 				

学習期間	学習内容	学習のねらい【到達度目標】	時数 (目安)
1 学期 中間考査	【数と式】 <ul style="list-style-type: none"> 展開と因数分解、根号を含む式の計算 実数の整数部分、小数部分 絶対値を含む 1 次不等式 条件と命題 	【数と式】 <p>展開や因数分解の順序を理解するとともに根号を含む式の計算が円滑に行えるようにする。</p> <p>実数の概念を理解するとともに及絶対値を含む 1 次不等式の解法を身に付ける。</p> <p>条件と命題の概念を理解する。</p>	1 2
1 学期 期末考査	【2次関数】 <ul style="list-style-type: none"> 平行移動と対象移動 最大・最小 2次関数の決定 2次方程式と2次不等式 	【2次関数】 <p>グラフの移動を理解するとともに最大値や最小値および2次関数を決定できるようになる。</p> <p>2次方程式や2次不等式が解けるようになるとともに、放物線と直線の関係や2次方程式の解の判別に活用できるようになる。</p>	1 4
2 学期 中間考査	【図形と計量】 <ul style="list-style-type: none"> 鋭角の三角比とその拡張 三角比の相互関係 正弦定理と余弦定理 図形への応用 【データの分析】 <ul style="list-style-type: none"> データの整理と分析 【数学A領域】 <ul style="list-style-type: none"> 場合の数と確率 ・ 図形の性質 	【図形と計量】 <p>三角比の意味や相互関係を理解するとともに、正弦・余弦定理を用いて図形に応用できるようになる。</p> 【データの分析】 <ul style="list-style-type: none"> 統計の基本的な考えを理解するとともに、それを用いてデータを整理、分析し傾向を把握できるようにする。 	1 4
2 学期 期末考査	【総合演習】 <ul style="list-style-type: none"> 基礎的な入試問題演習。 共通テスト過去問を用いた演習 	【総合演習】 <p>共通テスト過去問を活用し、基礎的な入試問題の解法に習熟させる</p>	1 6
3 学期 期末考査	【私大一般入試対策】 <ul style="list-style-type: none"> 私大等一般入試へ向けての演習。 	【私大一般入試対策】 <p>私大等一般入試へ向けての演習を行う。</p>	2 2

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力
	<ul style="list-style-type: none"> 因数分解や根号の計算など、基本計算ができる。 大問を解くための基礎的な知識を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題に応じて、どの数学的概念を使うのか、考えようとする。また、式に表そうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 入試問題など、基礎的な内容を用いて、演習問題に取り組もうとする。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 授業内の取り組み状況 提出物（ノート、レポート） 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 出席状況 	

学習のポイント	【補習・補講計画、参考図書など】 夏休みに入試問題をメインとした講習を開催する。
---------	--

年間授業計画表（令和5年度）

担当教員 片井木 寛之

教科・科目	数学Ⅲ	単位数	6	学年・学級	3年自由選択
教科書	東京書籍 Standard 数学Ⅲ				
補助教材	東京書籍 Standard Buddy WRITE 数学Ⅲ				
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ●数列や関数の極限について理解し、その極限を求めることができる。 ●様々な関数の微分を利用して、曲線の概形がかけるとともに、指定された部分の面積や、回転体の体積を求めることができる。 ●二次曲線について理解し、その概形がかける。 				

学習期間	学習内容	学習のねらい【到達度目標】	時数 (目安)
1学期 中間考査	<ul style="list-style-type: none"> ●関数 ●数列の極限 ●関数の極限 	<ul style="list-style-type: none"> ○分数関数や無理関数についてそのグラフがかける ○逆関数や合成関数の定義を理解し、それを求めることができる。 ○数列の収束・発散を判断し、極限を求めることができる。 ○いろいろな数列の極限を求めることができる。 ○関数の極限について理解する。 ○いろいろな関数の極限を求めることができる。 ○関数の連続性について理解する。 ○微分可能と連続性の関係を理解する。 	36
1学期 期末考査	<ul style="list-style-type: none"> ●微分 	<ul style="list-style-type: none"> ○導関数を定義に基づいて求めることができる。 ○積や商の形で表された関数を微分することができる。 ○合成関数や逆関数を微分することができる。 ○高次導関数を求めることができる。 ○いろいろな関数を微分することができる。 	42
2学期 中間考査	<ul style="list-style-type: none"> ●微分の応用 	<ul style="list-style-type: none"> ○接線の方程式を求めることができる。 ○関数の増減を調べ、極値を求められるとともに、グラフを書くことができる。 ○関数の最大・最小を求めることができる。 ○媒介変数で表示された関数を微分できる。 	42
2学期 期末考査	<ul style="list-style-type: none"> ●不定積分 ●定積分 ●積分の応用 	<ul style="list-style-type: none"> ○不定積分について理解する。 ○置換積分や部分積分ができる。 ○いろいろな関数の不定積分を求めることができる。 ○簡単な定積分の計算ができる。 ○置換積分や部分積分を利用して、定積分を求めることができる。 ○曲線で囲まれた部分の面積を求めることができる。 ○回転体の体積を求めることができる。 	48
3学期 期末考査	<ul style="list-style-type: none"> ●2次曲線 ●媒介変数表示 	<ul style="list-style-type: none"> ○放物線・楕円・双曲線について理解し、概形がかける。 ○2次曲線と直線の関係を考察できる。 ○媒介変数で表示された曲線の概形について考察できる。 	66

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力
	公式や性質を理解するとともに、それらも利用して問題を解くことができる。また、問題について解説することができる。	与えられた問題を数学的に捉え、適切な数式で表すことができるとともに、そこから事象の性質について考察できる。	身の回りの事象を数学的に捉えようとする。教えあいを大切に、皆で問題を解決しようとする。
評価方法	定期テスト（全5回 各100点） 授業態度【加点・減点要素】 小テスト【加点要素】		

学習のポイント	【補習・補講計画、参考図書など】 ★わからないところはすぐに先生に聞きましょう ★成績不振の場合は、長期休暇中に課題または補習を課します。
---------	---